

## 〈第7部番外編：付録〉

### 番外編2. 「虎」

〈日本語訳〉

虎

虎よ！ 虎よ！

夜の森の中で、燃えるように輝いている虎よ！

いかなる不滅の手が、あるいは眼が、  
お前の畏るべき均整美を造り得たのか？

いかなる深き海、いかなる遠き空で、  
お前の眼の炎は燃えていたのか？  
神はいかなる翼をもって、高く昇ろうとしたのか？  
いかなる手で、あの火を掴もうとしたのか？

そして、いかなる肩が、いかなる技が、  
お前の心臓の筋肉を捻り得たのか？  
お前の心臓が脈打ち始めた時、  
いかなる恐るべき手が、いかなる恐るべき足が、用いられたのか？

いかなる金槌が？ いかなる鎖が？  
いかなる炉が、お前の頭脳を鑄るのに用いられたのか？  
いかなる鉄床が？ いかなる恐るべき握力が、  
お前の死の恐怖を抑えつけているのか？

星々がその光の槍を放ち、  
星の涙で天を覆いつくした時、  
神は自らの創造物たるお前を見て微笑まれたのであろうか？  
仔羊を造られた神がお前をも造ったのであろうか？

虎よ！ 虎よ！

夜の森の中で、燃えるように輝いている虎よ！

いかなる不滅の手が、あるいは眼が、  
お前の畏るべき均整美を造り得たのか？

(野村忠央訳)

### —参考— 『無垢の歌』

〈日本語訳〉

幼児の喜び

「ぼくには名前がないんだ。  
生まれてたった二日だからね。」  
じゃあお前のことを何て呼ぼうか？  
「ぼくは幸せだから、

ジョイ(喜び)っていうのをぼくの名前にしようよ。」  
すてきなジョイ(喜び)がお前に降りそそぎますように。

かわいいジョイ!  
生まれてたった二日のすばらしいジョイ、  
すばらしいジョイとお前を呼んであげよう。  
—お前が笑う、  
私が歌う、  
すてきなジョイ(喜び)がお前に降りそそぎますように!

(野村忠央訳)